

“心豊か” な人でいたい

節約しても心が磨り減るのはNG。ちょっとしたぜいたくは心の栄養だから。

▶ネイルサロン

指先がきれいだと自信が持てるし、仕事もなんとなく上品になる
(未婚 26 歳 / フルタイム)

▶バター

おいしいバターはやっぱり違う。パンを自分で焼くことにして、お店で買わなくなったので、材料費くらいはケチらない
(既婚 31 歳 / 専業主婦)

▶外食

ミシュランに掲載されたお店でなら、お金を使ってもよいと思う
(既婚 33 歳 / フルタイム)

▶キッチン雑貨

お玉や鍋、ふきんなどは値段以上に使っているし、意外と長持ちするので、高くても使っていて心地よいものがある
(既婚 36 歳 / 専業主婦)

▶託児代

ストレス解消のための自分の時間を確保するために必要
(既婚 37 歳 / 専業主婦)

自分への投資は後悔なし

収入アップで直接回収できなくても、女性は「自分に投資」が大好き。

▶本

自分に投資という意味で、月に10万使ってもいいくらいだと思っている
(既婚 29 歳 / フルタイム)

▶エステ

33歳になると自分の力ではどうしようもない。支払える範囲であれば積極的に投資すべきだと思う
(未婚 33 歳 / フルタイム)

▶バッグ

流行にとらわれず長く使えるものなら、多少の値段の高さは自分への投資だと考えて使ってもいいことにした
(未婚 33 歳 / フルタイム)

▶パン教室

将来自分でパン教室を開きたいと思うので、自分への投資として惜しまずに出費したい
(既婚 47 歳 / パート・アルバイト)

今しかない

タイムセールなど販促の常套句だが、もっといろいろな「今」を、女性は意識している。

▶着物

もともと着物好きな上に着物ブームが到来。買うなら今しかない。一生着られるんだし
(未婚 23 歳 / フルタイム)

▶洋服

彼氏と別れた今、新たな出会いのためには必要経費
(未婚 29 歳 / フルタイム)

▶海外旅行

自由に行けるのは子供のいない今のうち
(既婚 34 歳 / フルタイム)

▶自分の娯楽費

子供の受験が済んだ今、私にも息抜きが必要
(既婚 45 歳 / パート・アルバイト)

▶飲み会代

夜の外出が20年ぶりにできるようになったので、ちょっと高くてもまあいいかと思う
(既婚 47 歳 / パート・アルバイト)

年齢的に…

美容関連で切り札となる言い訳。今お金をかけずに、将来後悔しても遅いから…。

▶下着

そろそろガードルなどにもっとお金をかけて、体形維持を心がけなければ
(未婚 27 歳 / フルタイム)

▶ネイル・マッサージ

取り返しがつかなくなる前にきれいにしておかないと、きっと後悔すると思うから
(未婚 29 歳 / フルタイム)

▶化粧水

結婚してからはとにかく安いものを探していたが、年齢とともにそこにはかけていだろう、と自分に言い聞かせた
(既婚 32 歳 / 専業主婦)

▶美容サプリ

年齢のことを考えると、ある程度お金をかけてもいいと思うようになった
(既婚 33 歳 / フルタイム)

▶化粧品全般

なんとか加齢を食い止めるためには、多少の出費は仕方ない
(既婚 52 歳 / パート・アルバイト)

健康が一番の節約

40代・50代を中心に、説得力の高い言い訳が“病気をするより安い”。

▶ビール

1カ月に4ケースくらい飲むので、発泡酒ばかりだと体に悪いかもしれないと思い、特売を狙ってビールにした
(既婚 31 歳 / 専業主婦)

▶いろいろ

以前は節約を心がけていたが、親の入院により無理をして体を壊しては余計に大出費になると思った。タクシー代や便利な家電、サービスなど、お金でゆとりや安心を買うのはいいと思った
(既婚 42 歳 / フルタイム)

▶ドッグフード

エサは多少高くても、健康で長生きしてもらえば結局は安上がりだと思って、高級なものを与えるようになった
(既婚 47 歳 / 専業主婦)

▶運動系習い事

健康のために運動できる習い事なら多少高くてもいいと思う
(既婚 50 歳 / フルタイム)

子供もいるし

子供にはお金がかかる。しかし、子供を理由にこんなモノも買っている。

▶おもちゃ

自分が子供のころ欲しくても買ってもらえなかったから、自分の子供にじゃんじゃん買って一緒に遊びたい
(既婚 27 歳 / 専業主婦)

▶洋服

最近幼稚園に小ざいいなママさんたちが増えた。それに合わせないと
(既婚 36 歳 / 専業主婦)

▶家電

子供が増えて家事が大変なので、便利で高性能な家電なら高くても惜しみなく買う！
(既婚 40 歳 / フルタイム)

▶化粧品

娘が幼稚園に上がったので送り迎えで外に出るようになり、夫にも何とかするように言われた
(既婚 40 歳 / 専業主婦)

▶アクセサリー

娘が大きくなったので、一緒に使う機会が増えた。ティファニーとフォリフォリがお気に入り
(既婚 47 歳 / 専業主婦)

こんな時代でも？ こんな時代だから？ オンナの消費の背中を押した “お財布を開いちゃう” 言い訳はコレ！

今回の「価格感覚調査」では、「この1年間で、自分の中で“使ってもいい金額”が特に上昇したもの」について、約3000人の女性のコメントが集まった。その中で、物価高などによって仕方なく上昇したのではなく、主体的に上昇させた品目について、「上がった理由」を分類してみたところ、6つの代表的なパターンが浮かび上がった。女性が財布を開く瞬間の「自分への言い訳」を紹介する。

この「言い訳」が、消費を促す最強のメッセージ

今回集まった、女性約3000人分の「使ってもいい金額」が特に上昇したものと「理由」のコメント。整理してみると、「やり手セールスマンの常套句？」というセリフが並ぶ。女性心理は変わらないもので、これらが消費をためらう女性たちの背中を押すための、いまだ最強のメッセージなことは間違いないようだ。

一方で、出てきそうなのに意外と出なかった「言い訳」もある。そんな「弱い言い訳」を、最後に紹介しよう。

①「エコ」は、意外と弱い
今回のコメントで「エコ」を理由に値ごろ感を感じた人は少なかった。「エコ替え」といったメッセージも、まだまだ女性の背中を押して消費に向かわせるまでには浸透していないようだ。

②「夫」は、弱い
言い訳の背景になるのは、圧倒的に「自分」次いで、ぐっと登場回数は減るが「子供」「夫」はほとんど登場せず、「ペット」と同じくらいだった。

また、「使ってもいい金額」をダウンしたもので、一番目立ったのは衣料品。「もうたくさん持っている」「収納に困っている」「シンプルに暮らしたい」といった、買わない言い訳を挙げる人が多数。「がまん」というムードが意外に少ないことから、今後の売れ行きに不安がよぎる。